

KIDS SMILE LABO JOURNAL

“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

Vol.40
2024
— OCTOBER
TAKE FREE



KIDS SMILE LABO の 1 枚。

副園長の森誉さんが選んだ、とっておきの 1 枚を紹介します！

“子どもたちは知っている”

やってみたくて憧れたあの日に想い描いたことを
大きくなった私が自分の手で形にしてい
真剣な表情を見せながら初めてのことに挑戦して
少しずつ 少しずつ
私の想いが形になっていく
難しいこともある 上手くできず悔しいときもある
それでも諦めずに取り組み続けられるのは
やってみたくて形になった時の
心が満たされていく感覚をラボの子どもたちは知っているから
自分自身で感じる嬉しさや喜び、達成感も
人から「すごいね!」「できたね!」と認めてもらう心地良さも
そのどれもをラボの子どもたちは知っているから
子どもたちは今、やってみたくて形にしながら
自分自身を知り、認め、築いていく大切な時間を過ごしています

photo & text by morimori

JOURNAL TOPIC

01 KIDS SMILE LABO CLASS NEWS

10 月の子どもたちの様子をピックアップ！

02 やっちゃんとたいたい

調理のやっちゃんが息子くんと一緒に復帰！復帰に至る想いをお届けします。

03 畑日記

昨年度から取り組んでいる畑の活動をご覧ください。

kidssmilelabo.com



@kidssmilelabo

KIDS SMILE LABO

@kidssmilelabo

@KIDS_SMILE_LABO

from KOMOREBI <0歳児>



手つなぎ散歩ははじめました

長かった夏が終わり、やっと秋の気配を感じ始めた今日この頃、戸外活動もようやく再開です！

この夏の間に子どもたちの身体はグンと成長し、少し前まではたどたどしさが残る歩き方だったのが、今では元気に走り回るほどに。

そんな成長著しいこもれびクラスは、戸外活動再開を機に手つなぎ散歩を始めました。ご家庭でも少しずつ手つなぎや靴を履く練習をしてくださっていたこともあり、手つなぎ散歩開始初日から意欲的に、楽しんで歩く姿が見られています。

足元に咲く草花、砂利道や土の上など、場所によって変わる足の感覚、マンホールの蓋や側溝の穴、いつも通る道だけどバギーの中からでは気が付かなかった新たな発見や魅力的な物達に「これはなんだ？」と時折寄り道をしながらも、日々心を躍らせて歩いている子どもたちです。

歩行がしっかりしてきたことで動ける範囲や出来ることも増え、手つなぎ散歩をはじめいつも遊びに行く広場では今までよりも遠くまで探索に行けるようになったり、上るのが難しかった斜面も手をつかずに足の力だけで上れるようになったり、子どもたちの世界がぐんぐんと広がっていくのを感じます。これからたくさん歩いて、色々なものを見て感じて、興味や発見の世界を広げることで、日々の生活がより楽しくなっていってほしいと思います。

☆10月より新しいお友だちが仲間入りして、こもれびクラスは6名になりました。ますます賑やかになりそうです！

文 あやや

from SOYOKAZE <1歳児>

自分でやりたい、やってみよう

暑さも和らぎ、柿や金木犀を見つけて、「あった！」と指をさしたり、犬やカエルの置き物を見つけて、「ワンワン」やら「かえるのうた」を歌ってみたりなど、見えるもの全てに興味を示しながら、散歩道中を楽しんでいるそよかぜクラス。

最近のそよかぜクラスさんは、「給食食べるよ！」「手を洗おうね！」の保育者の言葉かけに自ら進んで手洗い場にいき、手を洗う姿がみられます。進級当初は手洗い場で水を流し続けたり、ペーパータオルを何枚も引き出し、遊んでいた姿が懐かしく感じます。自分で洗うことはもちろん、友だちと一緒に「ゴシゴシ」と言葉にしながら手を擦り合わせたり、自分が石鹸をつけた後には友だちに「どうぞ」と渡す姿もあります。

また、オムツやズボンの着脱、靴下や靴を履くことを自分で頑張っています。はじめはうまく履けないことに葛藤していることもあり、難しそうなところは少しサポートしながら、見守る時間を大切に「自分でできた」という達成感と自信に繋がっていかれたらと思っています。

時間がないといつ大人がやってしまいそうになりますが、是非ご家庭でも一緒に子どもたちの「自分でできた」を応援して頂ければと思います。

文 さっとな



from NOBANA <2歳児>



雨の日のぼうさいの丘遠足

「いつ遠足？」と、何日も前から楽しみにしていたぼうさいの丘遠足。小雨が降る中、雨の日のぼうさいの丘へ遠足に行ってきました。

ぼうさいの丘に到着し、まずは孔雀さんへご挨拶。「やっほー！」と手を振ったり、綺麗な羽根を観察したり、話しかけたりと、孔雀との触れ合いをたっぷり楽しみました。

この季節ならではの金木犀の匂いを嗅いだり、どんぐりを拾いながら、お目当てのふれあい広場へ移動しました。

広場では、最近のばなクラスで大流行しているオオカミごっこや恐竜ごっこが始まりました。丘の上から走ったり、転がったりしながらたつぷりと身体を動かして遊びましたよ。

身体を動かして遊んだ後は、季節の丘へどんぐり拾い探検に出発！「大きいのが見つけた！」「カブトムシのツノもある！」「みどりのどんぐりもあるよ！」と、持っていた袋は、あっという間にお宝でいっぱいになっていました。そして、待ちに待った初めてのにおにぎり弁当の時間。

屋根のついたステージで食べ始めると「ウインナー入ってた！」「私のはこんぶ！」と話しに花を咲かせながら、嬉しそうに食べる姿が印象的でした。おにぎりを食べ終え、雨の降る広場へ繰り出して散策していると、突然雨が強まり「きゃー！」と大歓声を上げ、雨の冷たさや体に当たる感覚を楽しんでいました。

帰りのバスでは、クラスの半数が夢の世界へ…。雨の日遠足を大満喫したのばなさんでした。

文 みーちゃん

from MINAMO OZORA DAICHI 〈3・4・5 歳児〉

ルールのある遊びを通して

戸外で過ごす日が増え、子どもたちの体力も戻りつつあることを感じる秋です。そんな毎日の戸外遊びの中では、ごっこ遊びをする子、鬼ごっこをする子、また個人で遊ぶ子、集団で遊ぶ子と様々な姿が見られます。最近は好きな遊びを始める前に保育者から“全体でルールのある遊びしよう！”と子どもたちに提案しています。例えば、しっぽとり、ドロケイ、“かごめかごめ”をしてきました。子どもたちも楽しく感じているようで、散歩先に着くとまず、「きょうはなにをするの？」と聞かれるようになりました。

砂場遊びが好きだった子も体を動かす楽しさを知ったり、自分の“得意”を発見することもあります。また、ひとりで走ることが好きだった子も、全員での“かごめかごめ”を経験したことで集団遊びの楽しさを知ることができたかもしれません。普段関わることの少なかった友だちと関わることで一緒に遊ぶ楽しさを知ったり、その子の意外な一面を知ることもあります。また、全員がルールを守らなければ遊びが成立しないですし、トラブルの原因にもなります。勝ち負けのあるゲームではもちろん、勝つことも負けることもあります。勝つ喜び、負ける悔しさを感じ、涙を見せながら気持ちを葛藤させる場面もありました。それでも、負けた時に気持ちを切り替えて「もういっかい、ちょうせんしよう！」と思えること、友だち同士で励ましの声をかけ合えることは集団遊びだからこそできることだと感じました。

子どもたちが主体的に遊びを作っていくことがラボの活動の土台となっていますが、大人の「やってみたいを形に」することも日々の中の基盤になっています。「やってみてたのしかった！」という経験の積み重ねがこれからの子どもたちの心の糧になってくれたら嬉しいです。

文 ゆりゆり



お知らせ notice

やっちゃん、たいたいとラボへ！

今年の2月から産休育休に入り、はや8ヶ月。しかし“はや”と言っても3月に息子が生まれ、この時間は戻ることがないと分かっている、早く今日が終わらないかなと、2人きりで過ごす毎日が長いなあと感じる日もありました。それでも日々小さな成長に喜んだり、既に一生分の愛おしさと幸せを貰ったことも確かなのです。

そして10月、息子のならし保育が始まりました。実は、ラボで働く前の私は漠然と将来子どもが産まれたら、子どもが小さいうちは専業主婦になるのだろうと思っていました。

では、何故ラボに預けて働こうという気持ちになったのか。それは毎日ラボで過ごす子どもたちの泣いたり笑ったり怒ったり、イキイキとした表情を間近で見ていたからです。この7ヶ月2人でもたくさん遊びました。しかし息子が成長すればする程、自宅保育の限界も感じていました。ならし保育が始まる時は少し寂しさもありましたが、“楽しんでおいで！”とそんな気持ちで送り出せたのは、私だけでは体験させてあげることが出来ないたくさんの事がラボにはあると感じているからです。勿論、自宅保育と保育園に預ける事のどちらが良い悪いという事はありません。

これは余談ですが、ラボでは乳児クラスは詳細に連絡帳でその日の我が子のエピソードが送られてきますよね。これが思っていた以上に嬉しいです！ラボでどんな風に過ごしていたのか、毎日楽しみにしていて、何度も読み返してしまいます。

子育て、働き方と今の時代はたくさんの選択肢があります。

皆さまのご家庭も同じだとは思いますが、息子と家族、皆んなにとって、その時これが1番良いねと思う選択が出来たらいいなと思っています。また今月からどうぞよろしくお願いします。

文 やっちゃん



畑日記

by REIJI AKAMATSU

2023
6.14

初めての畑

ご縁があり畑を借りることができた昨年度。今の大地さんが大空さんの時に、初めて畑へ土を耕しに行きました。ラボから持参した玩具のスコップでは土が掘れず、子どもたちも大人用のシャベルとクワを使ってみることに。大きくて扱いにくいはずですが、体をうまく使い、どんどん扱いになれていく子どもたち。使ってみる、やってみるという経験がまたひとつ子どもたちを成長させてくれたように感じました。その後は暑さ指数の関係で、さつまいもの苗は畑を貸してくれた貸主さんに植えてもらいました。子どもたちがクワを使って耕すことで自信をつけたことから、子ども用のクワ、子ども用のシャベルを準備して畑への想いを強くしました。

2023
10.24

初めてのさつまいも掘り

秋を迎えラボで初めてのさつまいも掘り。野花さんも一緒に畑へ行き、さつまいもを収穫。土の中に埋まっているさつまいもを見つけると嬉しそうな表情と共に「とれたよ!」と見せてくれました。周りの土を掘ってから抜いたり、中々抜けないうさつまいもは、抜いている子の背中を持ち、またその後ろに繋がり、協力して引っ張る子どもたち。大人が方法を伝えなくとも、土に触れ、人に触れ、子どもたちは協力し合ってさつまいもを抜いていくのでした。

2023
11.21

玉ねぎを育てよう!

さつまいもを掘り終わった畑は、もう一度耕して畝を作り、肥料をまいて、玉ねぎの苗を植えました。玉ねぎの苗は小さくて細く、スーパーや絵本などで見る玉ねぎとは姿、形が違います。子どもたちは、これが玉ねぎになるのか?と不思議そうに観察し、「ネギみたい」と匂いに気づく様子も見られ、100本以上あった苗も、「もっとちょうだい!」と植えることを楽しみながら、倒れないように1つつ丁寧に植えていった子どもたち。畑に初めて自分たちで、作物を植えた日でした。

2024
5.9

ついに収穫!

畑へは定期的に雑草を抜きに行き、成長を見守りました。そして暖かくなってきた5月。デイキャンプでカレーを作ることが決まり、その食材に!と使う分の玉ねぎを収穫。1から育てたものを初めて収穫することができました。この日まで冬の寒い日も雑草を抜き、水をあげてお世話をしてきた子どもたち。スーパーに行けばすぐ手に入ってしまうものも、手間暇かけて育ててもらっているものだよねと子どもたちと振り返りながら話をしました。また、調理の日での肉じゃが作りに使用した玉ねぎは、全て子どもたちが育てて収穫したものでした。新玉ねぎの甘さが際立ち「おいしい!」「おかわり!」という声が沢山聞こえ、みんなのお腹も心も満たす、そんな玉ねぎになりました。

これからも畑へ

畑での活動を通して、畑の道具に触れる経験や食べ物の成り立ちを学び、収穫や調理の楽しさを感じられたと思います。自分たちで育てたものを調理して食べることで、食べ物への興味や関心にも繋がり、今まで以上に調理の活動にも期待を持ち参加している子どもたち。これからも様々な作物を育て、収穫し、調理していくことで、子どもたちの生きる力を積み重ねていきたいと思います。